

# 地方公務労働者の意識構造と労働者像(2)

## 自治労北海道本部「組合員意識調査」の10年―職場の人間関係

杉本龍紀

本誌二〇一三年四月号にて、自治労北海道本部が長く取り組んできた「組合員意識調査」のうち、二一世紀に入ってからの一〇年六回の調査結果の概要を紹介した。これに続く本稿では、職場と仕事に関する調査項目のうち、職場の人間関係・雰囲気に係るもの限定して、組合員の意識変化を検討する。

### 職場の人間関係・雰囲気の肯定的変化

前回紹介した調査結果の概要では、05調査から09調査にかけて職場における人間関係に係る不満が弱まり、その傾向は11調査においてさらに明確になっていることを指摘した。ここでは、その傾向は組合員の諸属性（性別、年齢、職種等）による相違があるかを見る。

まず、職場で「自由に意見や希望を話せるか」との設問についてである（07調査を除いて継続的

に問うてきた）。いささか分かりにくいのだが、いくつかの属性による回答の変化を01調査（雇用形態のみ03調査）と11調査を比較した図表1をご覧きたい。

ここで取り上げたすべての属性（性別・年代別・職種別・雇用形態別）に関して、01（03）調査から11調査にかけて、全体的に「そう思う」と答えた組合員の割合が著しく増加し、「そう思わない」とした割合が減少している。図表1には示していないが、継続して調査してきた他の属性（職務・役職、行政区分）のいずれについても、程度の差はあれ、全く同一の傾向を確認できる。

性・年代・職種・役職・行政区分・雇用形態を問わず、北海道の自治労組合員はこの一〇年で、（少なくとも意識の上では）より自由に話せる職場で働くようになったという、それ自体は肯定的な変化が生じている。

つぎに、「仕事で気軽に協力できるか」との設

問に対する回答の変化を、図表1とは一部違う属性を用いて示したのが図表2である。

ここでも、先の回答結果と同様の傾向が示される。すなわち、ここで示したすべての属性に関して01調査から11調査の一〇年間で、「そう思う」を選んだ組合員の割合が増加している。ここでは示せなかった他の属性（職種別、雇用形態別）でも同様の結果となっている。性・年代・職種・役職・行政区分・雇用形態を問わず、仕事において気軽に協力できるとの認識が強まってきている。

唯一の例外的結果は、役職のうち課長補佐職（相当職）にある組合員のうち、仕事で気軽に協力できるようになったと感じるのが半数近くはいる半面、協力できるようになったと思わないとする回答も増えていることである。これを除けば、職場での協力関係においても肯定的変化が生まれてきたといえる。

最後に、管理職に対する信頼度（「管理職は信頼され仕事もできるか」）について確認しよう（図表3）。

この図では年代別、職種別、職務・役職別の三つの属性を取り上げて、一〇年間の変化を示しているが、先の二設問と同様に、「そう思う」の割合が増加し、「そう思わない」の割合が減少している。他の属性（性別、雇用形態別、行政区分）による変化もまた同様であった。この一〇年で、管理職はより信頼され仕事もできるようになったと、自治労北海道本部の組合員はみなしている。

